令和５年５月２６日 発行　第３０号

かに牡丹
伊達家

郷　土　の　か　ぜ

仙台市民図書館　郷土資料コーナーから

仙台出身の英国貴族 黒川 玉を知っていますか

仙台市民図書館郷土資料担当 渡邉 啓市

「黒川玉（くろかわたま）」という名前を聞いてどのくらいの人が知っているでしょうか。私自身、この方のレファレンスを受けるまで、その名前を存じ上げませんでした。

彼女の本名は「黒川玉子」といい、イギリスの高級紙「デイリー・テレグラフ」の記者、編集長を務め、日本文化研究者でもあったエドウィン・アーノルド卿（1832 年-1904 年）の３番目の妻であった人物です。また、イギリスにおいて最初に貴族となった日本人女性でもあります。

この夫婦の結婚証明書によると、彼女は１869 年 11 月 21 日に仙台で生まれ、父の名前はモウキチ（あるいはモキチ）、立会人には、のちに首相となる加藤高明夫妻の名前があったそうです。そして結婚時は、玉が 28 歳、夫であるアーノルドは 65 歳と、37 歳もの年齢差がありました。

また、彼女の生い立ちについては、仙台生まれということが知られているだけで、日本での生活ぶりは知る由もなく、彼女自身も人に語ろうとはしなかったようです。後に慶応義塾大学の塾長となる小泉信三氏の日記によると「夫人（玉）の前身は審（つまび）らかでない。紅葉館※の女中だというものもあるし大工の娘だったのをアーノルドが見染めて連れて来たのだと云う。」とあり、南方熊楠が著した「新庄村合併に就て」という文の中では「佛教を詩で演じたサー・エドヰン・アーノルドが知人加藤章造の世話で黒川玉とか云う軍人の後家を後妻にして日本からつれ來りしを縁に～」とも書かれていますが、夫妻の馴れ初めの本当の事は定かでありません。

この結婚は英米のメディアで広く紹介され、玉の美貌と知性、ファッションセンスは上流社会で話題になったそうですが、アジア人ということで、評判を疎ましく思うイギリス人女性もいて、社交界でも差別を受けていたようです。そのような玉でしたが、外務大臣を務めた重光葵の手記には、ロンドンにおいて多くの日本人がレディー・アーノルド（玉）の厄介になったとあります。

しかし、アーノルドの死後は社交界のパーティに顔を出すことも少なくなり、日本に一度も帰国することなく 1962 年に 92 歳で生涯を終えました。そのお葬式には前妻の子どもや親戚は誰一人として出席せず寂しいもので、遺産もわずかしか残っていなかったそうです。

※　紅葉館　1881 年に野辺地尚義が現在の東京都港区芝に創設し、外国人接待、華族、政治家、軍人の社交場として利用された

<参考図書>
『青年小泉信三の日記』小泉信三／著（289）、『南方熊楠全集 第5巻 文集』南方熊楠／著（380）、『重光葵手記』重光葵／著（312）、『英国生活 ミスターパートナー №374』ミスターパートナー／発行（S28.9）

■ある日のレファレンスから

今年の市政だより１月号に掲載されたサンドウィッチマンさんとの新春市長対談の中で、高校野球の試合前に行う挨拶が仙台発祥であったことについて触れられました。それがきっかけとなり、度々このことについてのレファレンスを受けましたので、簡単に紹介したいと思います。

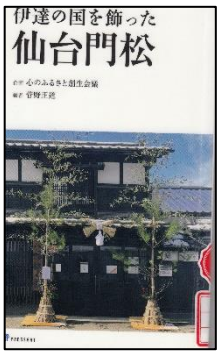
この出来事は 1911 年 11 月、当時の旧制二高グラウンド（現：片平公園）で行われた東北六県中等学校野球大会を開催した際、旧制二高の野球部員であった三鬼隆（みきたかし）氏（昭和期の実業家で元日本製鐵、八幡製鐵社長）らの考案で、「学生野球の健全さをアピールしよう」と試合前に両チームがホームベースを挟んで挨拶を行ったことが始まりとされています。その理由は当時の新聞に、野球は学生に悪影響とする「野球害毒論」が発表され、論争が起きたことがきっかけだったそうです。

このことは、2018 年７月 21 日付河北新報朝刊記事の「全国高校野球 100 回　東北甲子園物語」に東北ゆかりの秘話として紹介されており、日本野球機構、全日本野球協会主催の「野球伝来 150 年特設サイト」というインターネットのサイト（https://npb.jp/archives/japanesebaseball150th/）にも「聖地・名所 150 選」の一つとして片平公園が選ばれています。また、当館が所蔵している近代仙台研究会発行の『近代仙台研究会報告集 第４回発表会報告集』の中の発表テーマ「野球の「試合前挨拶」の仙台発祥と、その礎となった旧制二高「雄大剛健」の校風」には、経緯と背景が記されています。興味のある方は、４階郷土資料コーナーで確認してみてください。

■新着図書紹介（郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書）

『伊達の国を飾った 仙台門松』

心のふるさと創生会議／企画　　菅野正道／編　プレスアート　S38 タ



近年、身近では見る機会が少なくなった門松ですが、仙台にも伝統的な門松がかつてありました。それは、一般的に見られる門松とは異なり、松や竹などを門のように組み上げた形をしていました。

この門松は昔、仙台藩領だった地域などで飾られていましたが、近年ではごく僅かしか残っておらず、東日本大震災後に根白石で門松を続けている旧家を見つけ出し、調査すると古文書や絵画史料ともほぼ一致し、江戸時代の仙台門松として復元が可能となったそうです。

この本は、仙台門松の復活ドキュメントとしても楽しめる一冊です。

『マチモリ　杜の都は不思議のまち』

佐々木ひとみ／作　本郷けい子／絵　おさんぽ屋出版　S93 ササ

今から400年前、伊達政宗公が仙台にまちを作ったとき、密かに仏像を彫り「誰もが安心して暮せる豊かな国になるように」と願いを込めました。その仏像がある日、消えてしまいます。まちの守りの仏像を探すため、特別な目をもつ少年の町森樹は郷土史家の叔父とともに杜の都を駆け巡ります。―愛宕山　芭蕉の辻　大日如来　光禅寺―

仙台市在住の作家とイラストレーターによって描かれたこの作品には、仙台のまちづくりの歴史と魅力がいっぱい。付録の「マチモリ　仙台おさんぽマップ」を手に、ゆっくりと歴史をたどりながら 杜の都を歩きたくなります。

■編集後記■ 仙台では国内最大級の花と緑の祭典「第 40 回全国都市緑化仙台フェア」が青葉山公園や西公園南側地区などを会場として 34 年ぶりに開催されています。街のけやき並木が美しい新緑の季節を迎え、郷土資料コーナーの展示スペースにも、花と緑に関る資料を展示いたしましたので、どうぞご覧ください。そして、その後には街を散策しながら、フェア会場の花や緑と触れ合ってみてはいかがでしょうか。

発 行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー
所在地：仙台市青葉区春日町2－1せんだいメディアテーク内 TEL：022-261-1585